



第 1260 回例会報告

【2月は世界理解月間】

平成 24年 2 月 23 日(木) 曇り

会長挨拶

会長 三村昌暉

世界理解月間と米山奨学会

2月の第一例会で申し上げました通り、2月はロータリーの暦の上でたいへん特別な月であり、「世界理解月間」に指定されております。

この特別月間にクラブは、国際的な講演者や交換学生、国際学者をクラブ例会にご招待する等のプログラムを実施するよう要請されております。

そこで本日は、国際奉仕委員会が担当いたしまして、「世界理解と平和週間」のタイトルで、米山奨学生の王曉慧(わんぎょうけい)さんの卓話を計画いたしました。王曉慧(わんぎょうけい)さんのご紹介は、後ほど溝口国際奉仕委員長さんから詳しくお願いしたいと思います。

ロータリー米山奨学制度は、日本のロータリー独自の活動でありまして、日本のロータリーの創設者米山梅吉氏に由来するものであります。

皆さんは米山奨学会のシンボルマークをご存知でしょうか。

重なり合うハートは「ロータリアン」と「奨学生」を表しております。

外国人留学生の支援・交流を通じ、国を超えた絆や信頼関係を築き、やがて、一人ひとりの胸に世界平和を

願う“心”を育てるといふ、事業創設の願いが込められております。手は、そうした“心”を生み出すと同時に、当事業がロータリアンの手で支えられていることを示しております。

世界平和といえ、本日、2月23日はシカゴで最初にロータリーの会合が開かれたロータリーの誕生日記念日であります。この日を記念し2月23日は「世界理解と平和の日」として遵守されています。この日、国際理



解と友情と平和へのロータリーの献身を特に認め、強調しなければなりません。また、本日からの1週間は「世界理解と平和週間」となっております。

◇幹事報告◇

【報告事項】

①本日は、第9回理事会が行われ、3月例会日程等の協議を致しました。

03/01 休会

08 健康診断・平山隆勇会員卓話 職業奉仕委員会

15 東北大震災から1年 クラブ会報・雑誌広報委員会

22 雨宮太喜夫・信州少年野球連盟会長の卓話

新世代奉仕委員会

29 休会

②2/13 の諏訪G会長・幹事会にて、小松がバナー補佐により「全ての事業は当初計画とおりに進行している」との中間報告がありました。また、次期がバナー補佐は諏訪 RC: 山崎晃氏に内定、今期中に諏訪G全体の会員

■ニコニコBOX

25名	26,000円
累計	865,000円
目標額	130万円
達成率	66.5%

■今週のこトバ

2月23日は

1. ロータリーの創立記念日です
2. 223・富士山の日です
3. 皇太子殿下の誕生日です
4. 税理士記念日です
5. そして一番大切なのは僕の誕生日です

蒲地整志

■出席報告

会員数	33名
出席対象	33名
出席者数	27名
出席率	81.8%
前回修正	87.8%

■次回のプログラム

3月15日

東北大震災から1年

クラブ会報
雑誌広報委員会



名簿を作成することが決定しました。(添付写真はすてっぷカサイさんに依頼予定です)

【連絡事項】

3月のロータリーレターは1ドル78円となっております

【受領文書】

ウイークリー 諏訪RC・岡谷RC

第1260回例会

眉山留学生卓話

王 暁慧(おう ぎょうけい)

1. 私の経歴

わたくしは中国遼寧省阜新市の出身です。中学校を卒業してふるさとから450キロメートル離れている丹東市にある日本語専門学校を三年間通いました。三年間日本語漬けの日々を送っていましたが、日本語での聴解力、会話力が低かったのです。それでも卒業して日本語を生かす仕事に就きたかったのですが、出来ませんでした。その後7年間、親戚が作った会社で事務的な仕事をしてきましたが、やはりせっかく勉強した日本語で仕事したいと思い、ついに留学を決心しました。

日本に来てから長野国際文化学院(日本語学校)、京都光華女子大学、山梨英和大学、信州大学大学院を経て、既に7年半を経りました。わたくしは多数の留学生と同じく、ごく普通の留学生生活を送ってきました。昼間は学校で勉強し、夜は料理店や工場でアルバイトをして両立する勉強生活を送っていました。今考えたら、その時は大変だったのですが、充実した日々でした。留学の目標は、最初の日本語をマスターすることから専門的な知識を身に付けたいという目標に変わりつつあります。

7年半の留学生生活を経て、知識以外のこともたくさん勉強になり、そして様々なことを考えるようになりました。とくに、日本語を生かして何ができるかということをよく考えるようになりました。中国に戻ったら、日本語教師になって多くの中国人にありのままの日本を伝えたい、または翻訳家という道に進み、両国間文化交流の掛け橋になりたいと考えています。現在は日本での母校に当たる長野国際文化学院に勤め、中国人留学生を多く受け入れている学校での募集・生活指導を担当しています。この仕事を将来中日交流の掛け橋になるための出発点にし、きちんとこなして行きたいと思っています。



2. 中国における日本語教育の現状と、中日交流について。

大学時代および大学院では、日本語教育を専攻としてきました。教育理論・方法を習得するほか、中国における日本語教育の現状と課題を研究テーマとし、卒業論文と修士論文を仕上げました。その話を少ししながら、現在中国における日本語学習者の動機、そしてこれから中日交流の進むべき道について、皆様のご見解を聞きながら、愚見を述べたいと考えます。

2004.10～2006.3 長野国際文化学院

2006.3～2008.3 京都光華女子大学日本語日本文学科

2008.4～2010.3 山梨英和大学人間文化学部(編入学)

2010.4～2012 現在 信州大学大学院教育研究科

国語教育専修

2011-2012IMが開催されました。

3月4日諏訪大社RC主管のもと2011-2012年第2600地区諏訪グループのIM(インターシティミーティング)が、「絆-子育て親育ち」のテーマのもと開催され、諏訪湖RCからも沢山のメンバーが参加しました。

式典後の、綿貫パストガバナーの「子供たちの生きる意欲を育てる」講演は意義深いものでした。

続く松井和氏による基調講演は、笑いの続く講演でしたが、百名近い一般参加者あったことからわかるようにやはり意義深い講演でした。望月会員を除き子育て卒業のメンバーばかりですが、もう一度教育を考える良い機会でした。



続く懇親会での、クラブ対抗「音楽による出し物」の競演は、諏訪湖RCの「早春賦2部合唱」と「鍵盤ハーモニカ演奏」が団結力と音楽性のすばらしさで、圧倒的な評価を得(!?)1位になりました。

会員の皆さん練習・自習ご苦労様でした。

